

研究に関する情報公開

福島県立医科大学泌尿器科学講座では、本学倫理委員会の承認を得て、下記の研究を実施します。関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2022年9月 福島県立医科大学 学長 竹之下誠一

福島県立医科大学医学部泌尿器科学講座 片岡政雄

【研究課題名】

ロボット支援前立腺全摘除術時の電気メス使用部位・頻度と術後尿禁制および男性機能の関連についての研究

【研究期間】

2022年9月～2024年12月

【研究の意義・目的】

当科では、前立腺癌に対してロボット支援前立腺全摘除術を年間約80-90件施行しています。その際の基本的術式として膀胱出口の形態の温存や、後壁補強が行われています。いずれの術式にせよ、前立腺周囲を並走する神経を愛護的に扱う必要があると考えられています。そのため、神経周囲での電気メスの使用は極力控える必要があります。しかし、手術の際には血管を含めた組織の処理や止血の際にどうしても電気メスを使用せざるを得ないことがあります。これまで、前立腺処理の際の電気メス（モノポーラ、バイポーラ）使用部位や使用頻度と、術後の尿禁制や男性機能の関連性について評価した検討は見られておりません。

今回の研究では、ロボット支援前立腺全摘除術時の電気メスの使用部位、頻度、使用方法について、記録された手術動画で確認し、術後の尿もれに与える影響について明らかにすることを目的としています。本研究により得られた結果により、ロボット支援前立腺全摘除術の際の適切な電気メスの使用方法や、電気メスを使用すべきではない部位を特定することにより、将来的に前立腺全摘除術後の尿もれを減らすことが可能となり、患者さんの生活の質を改善し、患者さんの社会参加を促進することなどで社会に貢献できると考えています。

【研究の対象となる方】

2019年から2021年に当院で前立腺癌の診断でロボット支援前立腺全摘除術を受けられた患者さんを対象としています。

【研究の方法】

これまで行われた手術の手術動画にて、手術時の電気メスの使用部位、使用頻度を調査します。部位としては、特に尿禁制や男性機能に影響するであろう部位や神経の近傍とし、『精嚢脇』『前立腺底部』『前立腺尖部』『尿道脇』での処理の際の電気メス（モノポーラ、バイポーラ）使用の有無、回数と、使用方法（焼き切る・凝固止血）について調査を行います。また、術後1, 3, 6, 9, 12か月目に行われた排尿や尿失禁の検査、排尿や男性機能についての質問票から得られたデータを用いて、電気メスによる排尿や男性機能についての影響について統計学的に解析を行います。

【研究組織】

研究責任者	(所属)	泌尿器科学講座 (氏名)	片岡政雄
研究分担者	(所属)	泌尿器科学講座 (氏名)	赤井畑秀則
研究分担者	(所属)	泌尿器科学講座 (氏名)	佐藤雄一
研究分担者	(所属)	泌尿器科学講座 (氏名)	秦淳也
研究分担者	(所属)	泌尿器科学講座 (氏名)	胡口智之
研究分担者	(所属)	泌尿器科学講座 (氏名)	星誠二

【他の機関等への試料等の提供について】

該当しません。

【本研究に関する問い合わせ先】

本研究に関する御質問等がございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書及び研究の方法に関する資料を閲覧できます。

〒960-1295 福島県福島市光が丘1
公立大学法人福島県立医科大学医学部泌尿器科学講座 担当 片岡政雄
電話:024-547-1316 FAX: 024-548-3393
E-mail:masaoka@fmu.ac.jp

【試料・情報の利用を望まれない場合の連絡先】

試料・情報が当該研究に用いられることについて研究対象者ご本人又は代理人の方に御了承いただけない場合には、研究対象者とはせずに試料・情報の利用、提供をいたしませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも研究対象者ご本人又は代理人の方に不利益が生じることはありません。なお、研究結果が既に医療系雑誌への掲載や学会発表がなされている場合、データを取り消すことは困難な場合もあります。

〒960-1295 福島県福島市光が丘1
公立大学法人福島県立医科大学医学部泌尿器科学講座 担当 片岡政雄
電話:024-547-1316 FAX: 024-548-3393
E-mail:masaoka@fmu.ac.jp